

令和5年度

施策評価表(令和4年度の実績評価)

記入年月日

令和 5 年 6 月 26 日

施策 No.	政策名	快適な暮らしのまちづくり	主管課	水道課	主管課長名	島崎 寿春
5-6	施策名	上水道の整備	関係課	なし		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度
	市民	①桜川市人口	見込値	人		37,653	37,269	36,885	36,500
実績値						37,653			
見込値									
					実績値				
施策の意図		成果指標名	単位	区分	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度
安全安心な水が安定供給されている。		①水道普及率(給水人口/常住人口)	%	目標値	92.3	92.6	92.9	93.3	93.7
					実績値	92.3			
		②有収率	%	目標値	63.7	64.9	65.6	66.3	67.0
					実績値	64.2			
		③水道水に満足している市民の割合	%	目標値	51.8	47.0	49.0	51.0	55.0
					実績値	45.3			
		④経常収支比率	%	目標値	93.5	95.1	96.7	98.3	100
	実績値				93.5				
	⑤水道料金収納率	%	目標値	85.1	85.1	85.1	85.1	85.1	
				実績値	85.1				
成果指標設定の考え方	○水道利用者を増やすことが水道事業の健全経営に繋がるため、①「水道普及率」を指標とする。 ○水道事業の経営健全化の指標として、②「有収率」(有収率:配水量に対し使用された水量)と④経常収支比率(経常収益÷経常費用)を用いる。 ○安全で快適な水を適切な価格で供給できているかを測る指標として、③「水道水に満足している市民の割合」を用いる。 ○水道料金を適切に収納することが経営の安定化に繋がるため、⑤「水道料金収納率」を指標とする。								
成果指標の把握方法及算定式等	○対象人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○①水道普及率(給水人口/常住人口)、②有収率は、水道統計より求める。③水道水に満足している市民の割合は、市民アンケートより求める。④経常収支比率は、地方公営企業決算状況調査報告書より求める。⑤水道料金収納率は、水道課決算明細表より求める。								

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	①令和4年度は新規加入が84件あったが、水道普及率に変化はなかった。 ②有収率は依然として低い状況にあるが、漏水調査による修繕等を行い、前年度より向上した。 ③水道水に満足している市民の割合は、前年度に比べて低下した。直接的な要因は不明だが、引き続き安全で快適な水の安定供給に努める。 ④経常収支比率は、前年度から変化はなかった。 ⑤令和4年度決算から3月末までの水道料金を当該年度に計上することとしたため、水道料金の収納率は前年と比べて低下した。 成果指標5項目のうち、成果が向上した指標が1項目、変わらなかった指標が2項目、低下した指標が2項目となったが、水道料金収納率については、成果の捉え方が変わったことが原因であるため「成果がほとんど変わらない(横ばい状態)」とした。		

2) 成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを下回った	
背景・要因	①普及率は、前年度と変わらず、目標値を達成した。 ②有収率は、前年度より0.5ポイント上昇し、目標値を上回った。 ③水道水に満足している市民の割合は、前年度より6.5ポイント減少し、目標値を下回った。 ④経常収支比率は、前年度と変わらず、目標を達成した。 ⑤水道料金収納率は、前年度より大幅に減少したが、上記の理由によるものであることから、目標値を修正し、適正な評価を行うこととする。 ①普及率、②有収率、④経常収支比率で目標を達成した。		

3. 施策の成果実績に対しての総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対しての総括	今後の課題・方針
令和4年度に貢献度の高かった事業は、「取水・浄水施設管理運営事業」、「水道給配水施設維持管理事業」の2事業である。「取水・浄水施設管理運営事業」、「水道給配水施設維持管理事業」は、施策の目的達成に欠かせない事業であり、その役割は非常に大きい。	本格的な人口減少社会を迎え、給水収益の減少が見込まれる中、水道施設の老朽化が進行し、施設更新需要の大幅な増加が見込まれるとともに、配水管の耐震性の不足による大規模災害発生時に断水が長期化するリスクなどを抱えており、水道事業の基盤強化、施設更新等の対策が急務である。このため、令和5年3月に「桜川市水道ビジョン」及び「桜川市水道事業経営戦略」を策定し、計画的な事業運営に取り組むとともに、水道事業の広域化に向けた、調査・研究にも着手する。